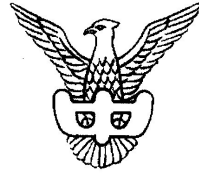


校長室より

第7号

「天空高き」



平成22年9月17日

心に残った素晴らしい運動会でした！

残暑厳しい中での運動会でした。期待通り、いやそれ以上の運動会でした。3年生を中心に、事前準備、後片付けを含め、166名の生徒の皆さんに「本当にご苦労様！」とねぎらいの言葉を掛けたいと思います。

堂々とした高水大行進、最後まで全力で走りきった紅白リレー。そして3年生のチームワークを見せてくれた応援合戦。

応援合戦については夏休みの早い段階から3年生を中心に紅白ともに、隊長、応援団長がリーダーシップを取りながら取り組んでいましたね。後期課外からは1,2年生も加わって卓球場で、剣道場で振り付けや移動の仕方に創意工夫を凝らしていました。私が一番感心したのは紅白応援団長の指導の仕方でした。赤隊応援団長若本さんは大きな声で元気に、白隊応援団長内本さんは穏やかな口調ながらしっかりとそれぞれの隊員に指導していました。動と静の対照的な応援団長だと思いました。しかし、2人とも、隊員を褒めながら、修正すべき点は丁寧に模範を示しながら、自分が間違った場合は素直に謝りながら、全身全霊を傾けての指導でした。2人の情熱あふれる、必死の思いが隊員達に伝わり、演技が次第に上達。運動会予行後の進歩は目を見張るものがありました。高水大行進は白隊に、応援合戦は赤隊に軍配が上がりましたが、

その頑張りに、166名の皆さんに満点をあげたいと思います。

今年のスローガンは、「Step by Step. 一歩ずつ」ですが、まさに皆さんは徐々に進歩しています。「一人ひとはチームのために、チームは一人ひとりのために」、その精神を次の中高合同文化祭の「楽学祭」に、そして

今月の言葉 「過去と他人は変えられないが、未来と自分は変えられる」

若鷹祭に発揮してもらいたいと思います。

楽学祭、若鷹祭に向けて肩を組もう！

2010ワールドカップ南アフリカ大会、岡田ジャパン、素晴らしい選手の活躍で見事決勝トーナメント進出でした。

大会直前に3連敗し、マスコミや多くのサポーターは予選突破に対して悲観的でしたが、初戦のカメルーン戦で本田の1点を死守し初勝利。それからは好守の切り替えの早さと組織的な守備でオランダ戦は敗れはしましたが、デンマーク戦は3点を奪い予選突破。決勝トーナメント1回戦のパラグアイ戦では延長の末PK戦で涙をのみましたが、我々に感動と勇気を与えてくれました。

なぜ、劇的に岡田ジャパンは変貌したのでしょうか。

ディフェンスの要、闘利王のコメント。「下手くそは下手くそそのやり方がある」「もう、守るものは何もない。ただ、一つひとつを大切に、一生懸命に頑張るだけ。ハートだよ、ハート！」この言葉に象徴されるように、チーム全体が開き直り、一人ひとりが思いきりのあるプレーをしたことです。

もうひとつは、チームワークの力「和」です。大会前までは、チーム全体がおとなしく、コミュニケーション不足が指摘されていましたが、カメルーン戦の国歌演奏の時には、選手もベンチもお互いに肩を組んで「君が代」を斉唱していました。試合では、お互いにコーチングしながら、勝つためにチームプレーに徹していました。

運動会では紅白ともに、組織体として見事に機能していました。選手一人ひとりが輝いて見えました。楽学祭や若鷹祭では、学年、学級の一人ひとりが自分の役割をきちんと演じ、お互いに助け励まし合い、一致団結し合うことが大切です。聖徳太子の言葉「和を以て貴しと為す」がキーワードになります。皆さんの頑張りに大いに期待しています。

夏休みの宿題一弁当力一

心のこもった弁当または食事を家族のために作ってもらいました。お母さんの日頃の大変さ、苦労や家族への思い遣りに多くの生徒が気がついてくれたことがうれしく思います。せっかく丹誠を込めて家族のために作った弁当や食事です。若鷹祭の時に保護者の皆さんに公開したいと思います。楽しみに待っていてください。

高水高等学校附属中学校

校長 前田 茂雄

